

福井県サッカー協会

2016 revolution start

— 明日へ向かって —

Mission ～やるべきこと～

□理念

サッカーの普及・振興を図り、県民の豊かなスポーツ文化を創造し、心身の健全な発達と社会の発展に寄与する

□ビジョン

- 1 サッカーの普及に努め、多くの人々がサッカーをより身近に楽しむことができる環境を作り上げる
- 2 サッカーの強化に努め、福井県代表選手が国内外で活躍することで、県民に希望と感動を与える
- 3 リスペクト・フェアプレー精神の浸透を図り、スポーツの価値を高め、地域社会に貢献する



□ミッション

- (1) 普及施策の推進 (サッカーファミリーの拡大、サッカー施設の整備)
- (2) 福井県代表の強化 (国体チーム、種別チーム)
- (3) 育成環境の充実 (指導者、審判員、運営員の育成と資質向上)
- (4) 組織基盤の強化 (協会組織の改革、市町協会との連携)
- (5) Jクラブチームへの昇格支援

Target ～目標設定～

【あるべき姿】

サッカーファミリー・施設の拡充

【短期】フットボールセンターの設置

【中期】2022年までに1.1万人

福井県代表チームの強化

【短期】2018年福井国体に向けた強化

【中期】トレセンの北信越地域上位の定着

普及

強化

基盤

ビジョンの共有

【短期】市町協会との連携

【中期】人材の育成・最適配置

Target ～目標設定～

【具体的目標】

- ＜普及＞
 - サッカーファミリー(選手、指導者、審判員)の1%増/年
→2022年までに11,000人
 - 福井県フットボールセンターの設置 (2020年)

- ＜強化＞
 - 2018年福井国体総合優勝、2021年高校総体ベスト8
 - 各トレセンの北信越地域での上位定着
 - 有資格指導者の資質向上

- ＜基盤＞
 - 組織の充実を目指す業務管理
 - 市町サッカー協会との連携および事務局体制の強化
 - Jクラブチームの設置

アクションプラン(Plan1-1)

【普及】

- サッカー登録者(選手、指導者、審判)を、2022年までに1.1万人に拡大(現在9,9千名)
 - ◇ 市町協会に登録している1種チームの取り込み
 - ◇ 事務的作業の支援制度の検討
 - ・一般社会人チームや外国人チームの事務的支援
 - ・試合の審判員の派遣支援
 - ◇ シニア年代への生涯スポーツ意識の推進
 - ◇ キッズ年代や女子選手への積極的な普及活動
 - ◇ フットサルに対する意識改革および普及活動
 - ◇ ユース(U-18,U-15)審判員の拡大
 - ◇ 女性審判員・女性指導者の育成
 - ◇ マスコミを活用した宣伝活動
 - ◇ 少子化対策(適齢期の選手の出会いの支援、子育て応援制度の検討)

アクションプラン(Plan1-2)

【普及】

□ 施設の拡大 ～サッカー場の確保は最優先課題～

- ◇ 2016年：坂井市サッカー施設（人工芝1面）の整備
- ◇ 2020年：福井県フットボールセンターの設置
- ◇ 更なる施設整備に向け、自治体への働きかけの継続
- ◇ 各既存サッカー場の更衣室、屋根付きベンチ、
- ◇ 避雷施設設置の要請
- ◇ 福井県独自の種目の試み
 - ① サッカーテニスの大会開催
（スキルアップ、冬季のイベント、少年からシニアまで）
 - ② 障害者サッカーフェスティバル

アクションプラン(Plan2-1)

【強化】

『本県のサッカー競技レベルは、ここ十数年、北信越地域において、最下位と低迷。トレセン活動を充実させるとともに、2018年福井国体、2021年に福井県で開催される高校総体での、福井代表県チームの好成績をめざして、強化に取り組む』
◇原因を科学的に検討 ◇強化対策検討チームの設置

- 2018福井国体：
 成年男子、女子、少年(U-16)の活躍による総合優勝
- トレセン活動：北信越地域での上位定着
- 指導者：A級、B級コーチの育成および資質の向上
 ：女性指導者、フットサル指導者の育成
- 審判員：1級、2級審判員およびインストラクターの育成
 ：女性審判員の資質向上

アクションプラン(Plan3-1)

【基盤】

- 各種委員会組織の強化、連携
- 各種委員長のマネジメント能力の向上および委員長会議の活性化
- 理事会の活性化、建設的議論、各理事の意識改革
- 協会事務局の統率力アップに向けた体制強化
 - ◇ 事務的作業の支援員の設置
- 賛助会員やスポンサー獲得に向けた新たなマーケティングの取り組み
- 専門的知識やスキルを有する人材の育成、最適配置
 - ◇ 普及、指導法、安全対策、グローバル化等の検討
- リスペクト・フェアプレー精神の普及啓発（リスペクトワークショップの開催）
- 県内チームをJクラブに昇格させるための積極的な支援
- 交流イベント、日常的にサッカーを楽しむことができる支援の検討

アクションプラン(Plan3-2)

【基盤】

- 福井県としての特徴と強み活かす
公共交通機関は貧弱だが、車による機動力は大
嶺北地域と嶺南地域の地理的問題の解消

- ◇ 各委員会の連携、協働「1 + 1 = 3に！」
- ◇ 独自性を意識したオリジナルイベントの企画
(例：サッカーテニス、サッカーバレー等、気軽に取り組める種目の導入)
- ◇ どこにも負けない「おもてなし」
(滞在型の大会、観光地や温泉施設・宿泊施設との連携)
- ◇ マスコミの積極活用、広報活動の充実
(インターネットの活用・発信、協会HPの充実、投稿受付体制)

目標を達成するためのあるべき姿

- 具体的目標達成のために、ひとりひとりが、アクションプランを計画的に、積極的に、発展的に実行
- アクションプランの実行は、協会の義務であり、役員ひとりひとりの責務
- 意見を大切に、まずはコミュニケーションからスタート
- 昨年同様は衰退の始まり。慣例からの脱却、伝統よりも改革
- 目標を達成するために、皆が汗をかき、一歩、一歩、前へ、前へ
- 今を変えないと、未来は絶対に変わらない